

飯塚市庄内生活体験学校の動態：コロナ禍で、止めたこと、変えたこと、新しく始めたこと

正平, 辰男
飯塚市庄内生活体験学校

原, 和也
飯塚市庄内生活体験学校

<https://doi.org/10.15017/6796302>

出版情報：生活体験学習研究. 21, pp.3-11, 2021-07-30. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：



飯塚市庄内生活体験学校の動態

— コロナ禍で、止めたこと、変えたこと、新しく始めたこと —

正 平 辰 男* 原 和 也*

2020（令和2）年4月7日、政府が東京都など7都府県（福岡県を含む）に対して新型インフルエンザ特別措置法に基づき緊急事態宣言を発出した。5月4日、新型コロナウイルス対応について、緊急事態宣言の対象地域を全都道府県としたまま、5月31日まで延長すると決定した。2021（令和3年）1月7日、コロナウイルス拡大防止のため、再び緊急事態宣言が発出された。期間は1月8日から2月7日まで、実施区域は埼玉、千葉、神奈川の3県と東京都。1月13日、実施区域を次の通り拡大した。栃木、岐阜、愛知、兵庫、福岡の5県と京都府、大阪府の2府。期間は、1月14日から2月7日までとした。

コロナ禍が飯塚市庄内生活体験学校（以下、生活体験学校と略称する）の運営にどのような影響を与えたかを報告する。その影響を分けて考えると、生活体験学校本来の宿泊事業を中止したこと、中止したことによって代替事業として実施したこと、中止や代替に関わりなく新しく実施したことの3つになる。

中止した事業

①通学合宿と生活体験合宿の中止

飯塚市庄内生活体験学校の指定管理者としての事業は、通学合宿と生活体験合宿の2つの合宿事業である。通学合宿は6泊7日、生活体験合宿は1泊3日の合宿事業で、前者は年2～3回、後者は18回前後、両者合わせて20回程度の合宿を毎年実施してきた。1泊3日という日程は、1泊2日の宿泊事業に加えて日帰りの事前研修事業を指して1泊3日と言う。例年通りの日程で実施するつもりで3月から公募チラシ7,000枚を印刷して配布寸前まで準備を進めていた。チラシ印刷を発注する時期までは、今直面しているような状況になるとは予想していなかった。市内の小学2年生以上の全児童を対象に公募する事

業である。チラシ配布、応募申し込み書の回収一切を市内小学校20校（うち私立1校）の協力を得て実施している。3月30日にいたって飯塚市より、「新型コロナウイルス感染症対策について」が発出された。4月6日、チラシ配布を直前になって延期した。5月15日、飯塚市は公共施設の休館を5月24日までとし、5月25日から開館すると決めた。生活体験学校の合宿事業は実施の見通しがつかなくなった。

代替事業

②生活塾の開始と中止

合宿事業の公募を延期したまま6月中旬にいたって、宿泊無しの日帰り体験事業を新たに企画して公募する準備に入った。7月上旬に申し込みを集約して8月以降の日曜日に一日研修として体験活動を開始した。前期の応募者を11月まで12班に編成した。8月は2日、9日、23日と3回の日曜日を活動日として準備を整えたが、直前になって市内でコロナ感染者10名が判明して1班、2班を中止した。前期公募分を終わってみれば、2回（班）を中止したので10回（班）分136名が参加して終わった。後期分を120名（1班16～17名）の定員で公募して始めることにした。13班（12月6日）を終わったところで、市内小学校児童のコロナ感染が判明した。予定していた12月13日、20日の2回（班）を再び中止した。

中止事業・代替事業の比較考察

③宿泊事業と生活塾の比較

平成31（令和元）年度の通学合宿（6泊7日）は2回実施し、実人員40名が参加した。生活体験合宿（1泊2日）は17回実施し、実人員328名が参加した。

生活体験合宿の参加者（4年生以上）は、別途事前研修（一日、日帰り）に参加した。事前研修は8

*飯塚市庄内生活体験学校

連絡先：〒820-0111 福岡県飯塚市有安958番地1 E-mail: taiken.sch@oks.or.jp

回実施して121名が参加した。

○ 通学合宿

上述のような前年度の実績に対して、本年度（令和2）は実施しなかったので比べようもなかった。通学合宿については、合併後も庄内小学校のみを対象に継続してきた。コロナ禍によって全部を中止したので参加を希望する児童の期待には沿えなかった。新しく4年生になって参加を希望していた児童を大きく落胆させたことが、事後になって保護者を通じて伝わってきた。

○ 生活体験合宿と生活塾

生活体験合宿は前年度1泊2日の日程で実施してきたのに比べて、生活塾は宿泊無しの日帰り体験事業として実施したので、単に参加人数を比べて何かを言うことはできない。それでも、生活塾の活動プログラムに組み込んだ活動内容自体は、前年度までの生活体験合宿に組み込まれた活動内容そのものであり、内容も指導者もほとんど同じといって良い内容だった。この点においては、これまで実施してきた生活体験合宿の継承発展を期したといってもよい。

大きく変更せざるを得なかったのは食事作りである。合宿児童が自らの食事を作るというのは生活体験合宿の大きな生活課題であった。しかし、コロナ感染防止のため共同調理をしないという指示が出て、学校給食と全く同じことになって、食事作りは全て職員の手で行われた。会食の配置も相互の間隔を広く取ったうえで、教室同様の配置とした。食材の野菜収穫の様子も大きく変った。現状は野菜の生産が軌道に乗っていて野菜に限っていえば、「児童が食べる量」は、ほぼ自給できている。それが、1泊2日の日程で行う生活体験合宿の場合は昼夜朝昼と4食作るのに対して、生活塾（日帰り）の場合は昼1食のみを作る。4食対1食では消費する野菜の量が全く違う。ちなみに、4食作る生活体験合宿の野菜収穫記録の一例を示しておく。

生活塾は日帰り日程で行うので入浴はしない。生活体験学校では薪を燃料にステンレス製のタンクでお湯を沸かして入浴する。五右衛門風呂の外付けとでもいうべき装置である。児童の入浴を薪で沸かした風呂で行うというのは生活体験学校の体験の中でも特徴の一つであるが、令和2年度1年間は風呂釜に火を入れることはなかった。

菜園係収穫記録表

野菜名	個数	重さ(kg)	野菜名	個数	重さ(kg)
白菜	2個	5.6 [※]	シイタケ	38枚	2.1 [※]
里芋	71個	2.5 [※]	ホウレン草	11束	1.4 [※]
大根	7本	2.7 [※]	ジャガイモ	8個	2.9 [※]



○ 生活体験合宿と生活塾の日程一例

生活体験合宿と生活塾の違いを説明するため、実施計画書を各一例添付しておく、資料1・2・3。

以上の変更点と比較を資料として添付しておく。

体験合宿事業参加者比較

対象	令和元年度			令和2年度		
	通学	生活	生活塾	通学	生活	生活塾
2年	0	77	実施しなかった	実施しなかった		61
3年	0	121				36
4年	21	114				25
5年	10	67				19
6年	9	70				12
合計	40	449	0	0	0	153

新たに開始したこと

④養蜂活動（ニホンミツバチ）を語る（生活塾）

生活塾の活動内容は、前年度までの生活体験合宿に組み込まれた活動内容とほとんど同じだった。違っていたのは、8月から10月まで7回にわたってニホンミツバチの生態についての講話を入れたことである。参加児童にニホンミツバチの話をして聞かせようと企画したのは、コロナ禍対応で企画したというよりはコロナ禍対応が一つの契機となって生まれたといった方が事実に近い。そもそもニホンミツバチの取り組みは令和元年度3月末に実働を始めたもので、元農業高校教員の村瀬和彦先生の指導の下、養蜂活動に取り組んだ。全くの素人である生活体験学校職員が取り組んだ養蜂活動の「初めの一步」である。体験活動には違いないが、それは子どもの活動というより大人の体験活動といった方がよい。そのレベルの活動だから子どもに正確に話して聞かせる内容があるとは言にくいレベルだった。とはいえ、4月17日には用意した巣箱にニホンミツバチが入ってくれた。「おめでとうございます」と言いたいくら



養蜂の指導風景

いの快挙である。5月の中旬からスズメバチの攻撃と向き合うことになる。6月、7月とスズメバチとの戦いが続く。スズメバチはニホンミツバチの幼虫や蜂蜜を狙って巣箱に集まってくる。続く攻防に苦闘しつつも、ついに8月9日、村瀬先生の指導の下、初めての採蜜が行われた。この時点で生活体験学校職員の中には子どもに蜂蜜を採らせたいという気持ちはあった。しかし、万が一にも子どもをスズメバチの攻撃にさらすようなことがあってはならない。仕方無く動画を撮って後日子どもに見せることにした。これが生活塾で子どもにニホンミツバチの講話を入れた経緯である。それも、初めは1回だけやってみようかという程度の気持ちで、狙いは子どもがスズメバチの襲撃に会わないように巣箱に近寄らないことを徹底することを目標に話を組み立てた。話す方の生活体験学校職員は手探りで進めた養蜂活動を淡々と話すだけだが、子どもは巣箱の実物やスズメバチの実物を見せられて、終わりに僅かな蜂蜜を試食する。子どもが食い入るように話を聞く、その真剣な眼差しに催促されるようにして終わってみれば7回続いたニホンミツバチの講話だった。残った課題は危険と隣り合わせの養蜂活動で犠牲者を出さないよう細心の注意を持続することである。

急に増えた活動

⑤幼児の芋掘りと石焼きイモの出前

幼児の生活体験活動支援のなかでは、芋掘りと石焼きイモの出前が一番多い。特に令和2年度は元年度に比べると突出して増えている。芋掘り体験は3園から8園に増え、石焼きイモの出前は3園から10園に増えている。急増の直接の要因は、令和元年度飯塚市の教育予算で園と生活体験学校の間の送迎に



石焼き芋出前講座

要するバス代が措置されたことが大きく作用した。のみならず、各園の積極的な取り組みの背景にはコロナ禍によって各園が年度当初から計画していた園外保育などの行事を殆ど中止せざるを得なかったという事情がある。芋掘り体験は園の側で芋掘り体験ができる畑を確保できていなかったところに、バスの無料配車の実現して、しかも生活体験学校の芋掘りが許可されたという、園にとっては幸運な事例もある。石焼きイモ作りは、もともと各園で芋掘りの成果であるサツマイモを、園児においしく焼いて食べさせたいという希望があった。いっぽう生活体験学校では児童のために手作りでドラム缶を改造して石焼きイモ釜を作って使ってきた。イモ釜の利用スタイルは次の3通りである。①園の職員が生活体験学校のイモ釜を借用して自前で石焼きイモを作るという型で、愛宕幼稚園がその例である。②園児がバスで生活体験学校にきて石焼きイモ作りの過程を見学しながら試食する型である。この場合はヤギ・ウ



サギの餌やりや落ち葉プールなどを並行して体験することが多い。③イモ釜を園庭に持ち込んで生活体験学校職員が焼いてみせる型である。この場合は生活体験学校の軽トラックにイモ窯（通常は3基）と燃料の薪その他を積んで園まで出向く。園の側はイモを洗って準備する、イモを載せる台を準備するなどの役割をする。幼児の野外における生活体験活動支援を令和元年度と同2年度で比較した資料を添付しておく。

幼児の野外生活体験活動比較表

活動名	令和元年度		令和2年度	
	施設数	参加者数	施設数	参加者数
動物ふれあい体験	3	173	4	90
玉ねぎ収穫体験	3	147	2	114
ジャガイモ収穫体験	2	121	1	46
遠足	1	40	2	74
クッキング体験	1	38	0	0
サツマイモ収穫体験	5	257	8	290
石焼き芋体験（出前講座含む）	3	93	7	967
ヒノキのそうめん流し体験	3	60	0	0
お泊り保育	1	72	0	0
落花生収穫体験	2	84	1	62
落ち葉プール体験	1	35	2	61
ピザ焼き体験	2	55	2	37
里芋洗い体験	1	45	1	34
シイタケのコマ打ち体験	2	59	2	55
ミニトマト収穫	0	0	1	11
畑の養生（出前）	0	0	1	42
合計	30	1,279	34	1,883

新たなテーマ・果樹

⑥果樹栽培の開始

現状…生活体験学校の生産活動の中心は野菜作りである。野菜の種類も量も児童の合宿に必要なものはほぼ充足している。生産力が向上したのである。次のテーマは果樹である。果樹の生産力の現状は貧弱である。果樹は野菜に比べると長期の見通しと投資を要する。この観点からは、コロナ禍による休業を強いられている今年こそが注力のチャンスである。

生活体験学校の果樹栽培は子どもの収穫対象になるほどには成功していない。合併前に思いつきで植えた柿、クリ、キウイ、キンカンがそれぞれ2本程度生きている。どれも本格的に準備をして植えたものではない。加えて、生活体験学校の敷地全体が地

下30cm以上深いところは固いシャモットが敷き詰められていて樹木の伸長を阻んでいる。収穫の対象になっているのは、柿（富有柿）2本、キンカン2本である。キウイは植えてから10年以上になるが枯れずに生きている程度である。令和元年度、重機を頼んで穴を1mほど掘って植え替えたので、本年度は2倍程度に成長して、ささやかな実を5個ほどつけた。

クリを植える…令和2年秋、2本のクリと作業棟裏の3本の若木についてたくりの実が合わせて100個ほど収穫できた。その時、たまたま愛宕幼稚園の園児90名余りがやってきた。ク



リの個数と園児の人数がほぼ同数だったことから、そっくり愛宕幼稚園に贈呈した。これが喜ばれたことからクリ拾いというプログラムを準備しようという提案に行き着いた。クリ畑の候補地は生活体験学校の敷地南端の法面で、眼下に鳥羽公園の西端が広がる上下2段の斜面で東西約50m余り、上段斜面の長さは9mある。広くて急な斜面である。斜面の中間に東西に及ぶ平坦な通路があって、斜面の急な角度を緩和している。法面上段にクリ苗10本を植えることにした。村瀬先生に指導を仰いだら、一辺が一メートルの四角い穴を膝上までの深さに掘って堆肥と肥料を入れて植えるのだという。急な斜面に穴を掘るだけでも大仕事である。その一つの穴に20kgはあろうかという牛糞堆肥を3俵入れる、全部で30俵入れるという重労働である。堆肥の別に各一俵の肥料を入れた。1月中旬、クリ苗を植え終わった。ここまでの作業をして初めてクリ苗が根を張りやすくなるというのである。次なる課題は給水である。村瀬先生によれば、植えた後1年間は水やりが肝心だという。急な斜面にバケツで水やりというわけにもいかない。塩化ビニールの管とゴムホースをつないでクリ苗専用の給水管を仮設し、夏から秋にかけて給水が続けた。令和2年度は法面下段にさらに10本クリ苗植えの準備を進めた。前年度に比べれば距離



南の法面の滑車

にして9mの斜面を超えて下の段の作業になる。負荷が大きい。どうにか穴掘りは終えて、次は穴に投入する堆肥30俵と肥料10俵合わせて40俵を運ばねばならないが、それを人肩に頼って運ぶのは酷に過ぎる。思案の末に上段と中段に各1本の鉄柱を立てて9mの斜面にワイヤーを張って滑車を取り付けて運ぶことにした。ワイヤー張りは何かにつけて助けてもらっている本松通信工業（有）の本松社長にやってもらった。ワイヤーにつけた滑車を使って堆肥を降ろして、令和2年度分のクリ苗植えの準備は整った。

令和3年1月23日、雨降り止まぬ中をクリの苗木10本を植えこんだ。クリ拾いに興じる園児の姿を想像しながら。

キンカン、みかんを植える…令和2年3月、キンカン3本、みかん（温州みかん）2本を植えた。キンカンは既に2本植えてあって、色づき始める頃、園児の何人かは通りすがりに手を伸ばして取っていく。遊び半分でキンカンを取りたい園児



みかんの苗木

がいるのであればと3本植え足して5本のキンカン畑にした。みかんは生活体験学校の近くで栽培している個人宅のミカンモデルに、幼児と児童の食用にしたいと植えてみた。1本に5個の実をつけてみたがみかんの味がしたので令和3年3月29日、敷地

内に8本の苗を植えた。

生活体験学校の変わらぬこと

コロナ禍で事業の展開場面に種々の変化が生じた。縷々述べてきたように、中止したことあり、変更したことあり、新たに始めたことありという具合である。ことさらに教育と言わなくても、何気ない日常の暮らしの中に親が、大人が、子どもに伝えたいことはたくさん込められているし、たくさんのことが親から子へ伝えられてきた。初め通学合宿を提唱した頃に提案者に向かって言われたことだが、通学合宿の中身と言われていることは殆ど親が家庭でしっかり教えさえすれば済むことで、税金を使っていることではないという反対意見である。一理も二理もある、もっともな意見である。子どもの成長に必要なことは、教育や躾や訓練などなどと殊更に言わなくても、親も地域の大人も大切にしてきたし、今も大切に思っている。一般論だが、栄養学、調理学を学んだことのない母親が作ってくれた料理で育てられた子どもは山ほどいるが、栄養が偏っていたがゆえに成長不十分だった子どもはいないと言ってもよい。学問などと呼ばれることはないが、親たちは生活のなかで何が子どもの成長に良いのか悪いのか、溢れるばかりの情報の中から選び取って子どもの健康を守り育ててきた。母親の手料理は栄養のバランスがきちんと取れているのであろう。上杉孝實先生が指摘されたように、失われたものは親子の共同労働の中で親が子に教え伝えてきたことがらだったのである。日本は高度経済成長政策の路線を走って確かに豊かな生活を手に入れた。その結果、両親ともに働きに出て、子どもは親の背中を見たくとも見ることができない社会を作ってきた。親子が共に田畑で汗を流す暮らしは昔話になったのである。その大転換の際、失われた親子の共同労働に代わる手立てを準備する営みを誰が背負ったであろうか？今更、誰も昔の暮らしに戻りたいとは思わない、早くて便利で簡単な文化生活を手に入れた喜びは大きかった。しかし、得たものの大きさに比べて、失ったものの大きさを誰が推し量ったであろうか。失ったものの方が大きかったかもしれないと危惧した人々は少数に過ぎなかったのではなからうか。飯塚市庄内生活体験学校で取り組まれている通学合宿は、3密の極

みを自ら求めてやろうという企画であるから、とてもではないが、コロナ感染が解消するまでは再開できない。通学合宿でやっていることは、みんなでご飯を作って食べて、交代で風呂を沸かして（それも薪で火を燃やして）みんなで風呂に入って、布団を敷いて寝て、歩いて学校に行っていく、まことに普通のありふれた暮らしの繰り返しである。目新しいことなど何一つない。この近年は野菜の生産力が向上して、合宿期間中の野菜は殆ど買わずに済む。味噌も生活体験学校で毎年1年分を作る。合宿に必要な味噌は、自家製の味噌で十分に足りている。畑で出る野菜くずも、調理でできる野菜くずも、食事の残さいも、一切の生ごみを回収業者に頼んだことがない。すべてを堆肥にして畑に還元するという暮らしを30年以上続けている。誰かに何かを片付けてもらうような生活を退けて、循環する生活そのものを実践してきた。シイタケも原木シイタケを30年以上生産して食用に供してきた。2015（平成27）年12月、17年前に植えたクヌギ6本を伐採した。1カ月そのまま寝かせて乾燥させた。1本10mあるクヌギを約1m単位に切って（玉切り）ホダギにし、削孔してシイタケ菌のコマ打ちをした。2年後には原木シイタケが子どもたちの食用に供された。開設当初

は鶏を飼養して卵を収穫して子どもの食用に供した。鳥インフルエンザの流行を前に獣医師の助言を容れて鶏の飼養を止めたが、卵の収穫時に子どもが見せた興奮の表情が忘れられない。昨今、絆という言葉がしばしば強調されるが、絆の大切さなど自明のことをなおざりにしてきたこの国の在り様が問われていると言えないだろうか？変わることなく続いていることの中にこそ大切なことがある。子どもたちに当たり前のことを、当たり前のこととして実行させたい、通学合宿を提案した意図はそこにある。コロナ感染が収まれば、また濃厚接触を始めたい。



幼児の野外生活体験活動支援バス乗車風景

資料 1 生活体験合宿 実施計画書 (本文 4 頁関連)

参加者：15名（2年：4名、3年：3名、4年：3名、5年：2名、6年：3名）

8日 時間	実施内容
8:30	職員打ち合わせ
9:45	受付、集合
10:00	開校式 ①理事長挨拶 ②スタッフ紹介 ③日程説明
10:15	オリエンテーション ※保護者は保護者説明会 ○活動班及び係発表及び名札配布 ○各係の仕事説明（各係の活動場所にて）
10:30	体験活動① ★ピザ作り ★ジャガイモ掘り 場所：南の畑 （ピザ生地を渡かせている間に、ジャガイモ掘り）
12:00	ピザ焼きはじめ
12:30	屋食：ピザ、ポトフ 片付け <休憩30分>
14:00	体験活動② ★鳥羽池清掃 グループ① トイレ周辺 グループ② 駐車場周辺
15:30	各係活動 ○おかず係：夕食準備 ○ご飯係：飯盒炊飯（12合） ○菜園係：動物小屋掃除 ○風呂係：薪で風呂沸かし
17:00	夕食（シチュー・豚バラ大根）
18:30	入浴、就寝準備、振り返り
20:30	夕読み 就寝・消灯

9日 時間	実施内容	理事長	原	津山	高志	河中	岩村	花澤
6:30	起床、身支度、布団片付け		おかす・ごはん・風呂					
7:00	各係活動 ○おかす係：朝食準備 ○ごはん係：鍋で炊飯 ○菜園係：玄米掃除、フロアー掃除 ○風呂係：風呂掃除							
7:40	朝食：ご飯、中華スープ、野菜炒め 片付け							
8:10	朝詠み「朝のリレー」、荷物整理							
9:30	体験活動③ ★シイタケのコマ打ち ①森喜作伝の読み聞かせ（花澤） ②シイタケのコマ打ち体験							
11:00	各係活動 ○おかす係：風食準備 ○ごはん係：飯盒炊飯 ○菜園・風呂係：堆肥の切り返し	理事長	篠崎	津山	高志	河中	岩村	花澤
12:00	昼食：ご飯、だご汁、片付け		全体	ご飯	風呂	菜園	おかす	
13:00	大掃除 ※参加者掃除区域一貫を確認							
13:30	荷物整理 ※各自の荷物をフロアーに出し、確認作業	理事長	篠崎	津山	高志	河中	岩村	花澤
14:00	振り回り練習		全体	部屋 トイ	フロアー	手洗い場	台所	部屋 トイ
15:00	閉校式 ①成果発表 ②総評（岩村先生・花澤先生） ③事務連絡		練習				練習	練習
15:30	解散						閉校式 進行：片峯 愛莉	解散

資料2 生活塾 実施計画書（本文4頁関連）

生活塾（10班）実施計画書（令和2年10月25日）

【参加者】

2年	5	3年	4	4年	2
5年	1	6年	1	合計	13

職員	5	ボラ	1	6名
----	---	----	---	----

【実施計画】

時間	実施内容	職員					ボラ
		理事長	原	高志	岩村	甲斐	玉田
9:30	受付、集合 ※体温測定（平熱よりも+1℃） 参加費徴収		受付	活動準備	昼食準備	体温	昼食準備
10:00	始まりの会 ① 館長あいさつ ② 活動説明 ③ 講師紹介	始まりの会					
	体験活動1. トイレ掃除（講師：筑豊掃除に学ぶ会）	理事長	原	高志	岩村	甲斐	玉田
	生活棟男子：4名 + 2名 生活棟女子：2名 + 2名 交流センター男子：2名 + 1名 交流センター女子：2名 + 1名 水漉し：3名 + 1名 ※ 使用できるトイレは、管理棟に用意	石焼き芋	全体進行・写真	参加者補助	昼食準備		
12:10	終わりの会（振り返りなど）						
12:30	昼食 「カレーライス、マカロニサラダ」	昼食					
13:30	体験活動2. ニホンミツバチ講座	巣箱説明	動画	補助	昼食片付け指導		
14:10	振り返り ※振り返りシートへ記入		振り返	片付け		振り返	片付け
14:40	閉校式 ① 感想発表 ② 館長総評 ③ 諸連絡	閉校式					
15:00	解散	施設片付け					

資料3 生活塾 体験活動プログラム一覧（本文4頁関連）

実施日	体験活動	講師
8月2日（日）	新型コロナウイルス感染対策のため中止	
8月9日（日）	新型コロナウイルス感染対策のため中止	
8月23日（日）	洗濯の仕方	真鍋 和子氏（家庭科教諭）
	ニホンミツバチについて	職員
9月6日（日）	農業体験（サツマイモ収穫）	職員
	ニホンミツバチについて	
9月20日（日）	防災知識を学ぼう	吉田 英紀氏（飯塚市役所防災危機管理監）
	ニホンミツバチについて	職員
9月27日（日）	洗濯の仕方	真鍋 和子氏（家庭科教諭）
	ニホンミツバチについて	職員
10月4日（日）	農具を学ぼう	職員
	ニホンミツバチについて	
10月11日（日）	防災知識を学ぼう	吉田 英紀氏（飯塚市役所防災危機管理監）
	農業体験（サツマイモ収穫）	職員
10月18日（日）	お米の学習	林 紀子氏（小学校教諭）
	ニホンミツバチについて	職員
10月25日（日）	トイレ掃除	筑豊掃除に学ぶ会
	ニホンミツバチについて	職員
11月8日（日）	味噌作り体験	津村 有紀氏（純真短期大学食物栄養学科）
	農業体験（ナス・落花生収穫）	職員
11月15日（日）	ピザ焼き体験	職員
	農業体験（サツマイモ収穫）	